例会日 2016. 10. 11　累計No.1426　当年No.14

2016 -2017 年度
国際ロータリー会長：ジョンF.ジャーム「人類に奉仕するロータリー」
第２５６０地区ガバナー：田中　政春「基本を学び、地域と共に」
三条北ロータリークラブテーマ
「ロータリアンの深い絆と躍動感あるロータリークラブへ」

会　長:金子太一郎
幹　事:佐藤　秀一
SAA :羽賀　一真

例会日:火曜日12:30～13:30
例会場:三条ロイヤルホテル　TEL34-8111
事務局:三条市本町3-5-25三条ロイヤルホテル内
TEL:0256-35-7160　FAX:0256-35-7488

HP:http://www.sajo-nrc.org　AD:north@sanjo-nrc.org

本日の行事：「米山月間」

◆本日の出席：６６名中３３名
◆先々週の出席率：６６名中５７名 86.36%
（前年同期 80.30%）

◆本日のゲスト：米山奨学生
ゴンザレス.ロドリゲス ジョナタン君

◆本日のビジター：
三条東ＲＣ　栗山正男さん

◆先週のメークアップ：(敬称略)
１０月１日野球部練習
吉田文彦、石川一昭、西村　護
岡田大介、小林繁男、石黒隆夫
６日地区大会記念ゴルフ大会
金子太一郎、佐藤義英、丸山　勝
丸山正男、中條耕二、石丸　進
今井克義、岡田　健、落合益夫
６日燕ＲＣ　山崎　勲
１１日指名委員会
今井克義、高橋彰雄、大野新吉
落合益夫、佐藤義英、山崎　勲
渕岡　茂、山中　正、石川友意
小林繁男、丸山　勝、金子太一郎
佐藤秀一

＊本日の配布書類等
・No.1425 週報
・ロータリーの友１０月号
・月信１０月号（閲覧用）
・米山豆辞典

会長挨拶：金子太一郎会長

皆さん、こんにちは。３連休の後なので、出席者が少ないようです。天気もすっかり秋らしくなり、行楽シーズンにはもってこいです。
会長挨拶ですが、いつもパソコンで作って、タブレットに転送して、それから読み上げるのですがが、不具合があり転送されておりませんでした。そこで前から用意してました、文章があったので、これを読みたいと思います。
漁師と経営コンサルタントとの話ですが、経済学的に面白いので披露したいと思います。
中米のとある島に漁師が暮らしていました。その漁師は小舟を持っており、その船に乗ってその日の自分と家族の食べる分の魚を取ってくるのが日課でした。
それを見ていたアメリカ人旅行者が、こう言い出しました。「何とも素晴らしい魚ですね。どれくらいの時間、漁に出ていたのですか？」漁師は「今日は本の数時間だったかな？」と答えました。そしたら旅行者が「もっと長い時間漁をしていたら、もっと沢山の魚を取ることができるわけですよね。実にもったいない。」と言いました。
「いや、でも自分と自分の家族が食べる分にはこれで十分だから」と漁師は答えました。
「それじゃ、漁師さん、漁をしてない時間は何をしているのですか？」と旅行者が聞くと漁師は、「好きなことをするんだよ。日が高くなるまでゆっくりと寝て、それから漁に出かける。戻ってきたら子供と遊んで女房といちゃついて、夜になったら友達と一杯やってギターを弾いて歌を歌い、一日楽しく暮らすのさ。」すると

旅行者は突然真面目な面持ちになり、漁師に向かってこう言いました。」それはもったいない。ビジネスチャンスをミスミス逃しているようなものだ。私は、ハーバードビジネススクールでＭＢＡを取得した人間として貴方にアドバイスしましょう。貴方は毎日、もっと長い時間、漁をするべきです。余った魚を売ることで現金収入が得られるようになります。万が一病気になったり台風が来て漁ができなくなったりしても、現金貯蓄があれば安定した暮らしをすることができます。特に何もなければお金を貯めておいて、十分な金額が貯まったら今度は大きな漁船を買うと良いでしょう。この投資によって漁獲高も上がり現金収入は更にアップするでしょう。その現金を貯めて漁船を２隻、３隻と増やして行きます。ある程度の規模にまで成長したら仲買人に魚を卸すことをやめて、水産加工工場を自分で立ち上げ、そこで魚の加工を行います。そのころになれば会社にはたくさんの従業員がいます。時期が来ればあなたはこの小さな村を出て街へと引っ越すことになるでしょう。何も海がある所にこだわる理由もないわけですから。事業の拡大が上手くいけばロサンゼルスやニューヨークまで進出することになるかも知れません。他の会社とパートナー提携し、必要であればＭ＆Ａを行うことによってグループを成長させ会社がある程度の規模まで成長したら、あなたはマンハッタンの高層ビルのあるオフィスでミニスカートを履いた若くて仕事ができる秘書が入れてくれたコーヒーを飲みながら、ノートパソコンを開いて自分のグループ会社の経営の指導を取るのです。」漁師は黙って聞いていたが、「ふむ、なるほど。コーヒーはあまり好きじゃないけれど、ミニスカートの秘書は悪くない。だけどそうなるまでどれ位かかるのだろう？」と尋ねた。
旅行者は、「今はインターネットの時代ですから効率良くやれば１０年、いや５年でも実現可能なビジネスプランだと思います。」と。漁師は「それでニューヨークに引越しした後の私はどうなるのだい？」と尋ねました。旅行者は、「それからですか？それからが本当に凄いんですよ。このビジネスプランは、それ以後の為にあるようなものですから。」と旅行者はにんまりと笑い、「自社株を売却して億万長者になるんですよ」すると漁師は「億万長者か？そうか、それもわるくないかもしれないな。でも億万長者なると、どんないいことがあるんだい？」
すると旅行者は「億万長者になると、どんないいことがあるかですって？億万長者になれば自由に好きなことができるようになるんです。会社を辞めて海岸近くの小さな村に住んで日が高くなるまでゆっくりと寝て、日中は釣りをしたり子供と遊んだり、奥さんとイチャイチャしてすごして、夜になったら友達と一杯やってギターを弾いて歌を歌って過ごすんです。どうですか？素晴らしいビジネスプランだと思いませんか。
この話、皆さんはどう思いますか？　　以上です。

幹事報告：佐藤秀一幹事

・三条市青少年育成市民会議より　私のメッセージ小学生大会の後援依頼
・三条市特別支援教育研究協議会より　「ウィンターフェステバル」のご案内
　　日時　平成２８年１２月８日（木）9：30～11：30
　　会場　三条市総合福祉センター
・ロータリー日本財団より
　ポールハリスフェロー認証の伝達
　１回　金子太一郎・本田芳久・吉田文彦
　２回　西村　護・丸山正男
　３回　佐藤弘志
　４回　丸山　勝・外山晴一
　法人寄付　アークランドサカモト(株)

＊＊＊＊＊ロータリー財団ボックス１１日現在累計１４０，０００円＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊米山奨学ボックス１１日現在累計２５０，０００円＊＊＊＊＊＊＊＊＊

米山月間を記念して、皆さんからＢＯＸに協力して頂ました。ありがとうございました。

＊＊＊＊＊ニコニコボックス４日現在累計２８６，０００円＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

米山　忠俊君　米山奨学生ゴンザレスロドリゲスジョナタン君、日本留学をエンジョイしていますか。今日は卓話ご苦労様です

金子太一郎君　ゴンちゃん、卓話楽しみにしています。

中條　耕二君　ゴンザレス君の卓話ありがとう。福岡さんに感謝して。

今井　克義君　ロータリーの地区大会記念ゴルフで佐藤義英君が何と 78 のスコアー。素晴らしいです。快挙です。たゞ葛西選手のように本音はコノヤロー!!コンチクショウ!!

佐藤　義英君　先日のロータリー地区大会コンペで 78 の私のベストスコアが出ました。一緒に回った金子会長、中條さんありがとうございました。（もちろんシルバーテーからですが）!!よそのクラブでホールインワンもでました。

森　　　宏君　新潟シティーマラソン、フル４年ぶりに走って来ました。
制限時間まであと１分３０秒でしたが、完走出来ました。

笹原　壯玄君　本成寺ではお会式法要が 12 日、13 日と執行されます。お天気で助かります。

渕岡　　茂君　小林さんの隣に着席しました。

馬場直次郎君　ボックスに協力

本日の行事：　「米山月間」　米山奨学生：ゴンザレス.ロドリゲス ジョナタン君

「メキシコの紹介と日本留学」

現在長岡技術科学大学で土木を勉強しております。本日は私の出身地であるメキシコや、3 年半にわたって暮らしてきた日本での生活についてお話させていただきます。

まず、皆様はメキシコについてどんなイメージをお持ちでしょうか。情熱の国であったり、砂漠の国であったり、国民は普段大きなつばの帽子を被るという面白いイメージが強いと良く言われます。確かに、砂漠はありますし、明るい人が多いと思うのですが、帽子を被りながら、出勤したりはしません。一方で、メキシコはどんな場所にあるのだろうとイメージが付かない方もいらっしゃると思います。ですから、今日は私の国はどんな場所かを少しでも伝えることができればと思います。

私の出身地はメキシコの北の地方にあるモンテレイ市で、アメリカまで車で行くと 3 時間ぐらいかかるような距離でテキサス州に近い場所です。このモンテレイ市は産業都市であってメキシコシティに次ぐ大都市です。それで産業地域なので、観光スポットは少ないですが、州の面積は大きく、自然は豊富で、近代の都市と調和しながら、住みやすい街だと思います。そして、私の出身地と言えば、牛肉です。毎週末家族や友達などとの集まりがある度に必ず BBQ をします。主食かのように牛肉のステーキを好んで、肉の焼き方や料理の作り方へのこだわりが強いです。

メキシコ国内では、メキシコ市とカンクン市以外、他の地域を訪れたことがありません。

メキシコについて知らないことがたくさんありますが、知っている範囲で言えるのは料理が美味しくて、海が綺麗な場所がたくさんあります。特に料理は地域によって独特の料理があってメキシコの北と南の料理は極端に違いすぎて、他国にいるかのような感じがします。私の出身地は肉料理が多いですが、他の地域ではメキシコならではの魚や野菜をメインとした料理もたくさんあります。また、昔メキシコはスペインの植民地でした。その影響を受けて数百年のヨーロッパ風の建物かつ、マヤ族とアステカ族をは

じめとした民族によって建てられた建物もたくさんあって歴史が豊かな国でもあります。
本当にメキシコのことが好きすぎて、皆様には是非メキシコへ少なくとも人生に一回行っていただきたいです。きっと好きになること間違い無しかと思います。
続きまして、私の日本での生活についてお話ししたいと思います。日本に来てから、思い出になるようなことをたくさん経験して参りましたが、初めに日本に留学したきっかけと来日する前にどんなことしていたかを少しお話します。
実は私は日本ではなくて、フランスに留学をしようと思ったのです。高校時代に英語と共にフランス語の勉強を始めたことを機に、いつかフランスに住みたいなと思いながら、勉強をしてきました。その時は日本に住むことなど思いもしませんでしたが、フランス語と英語を勉強したおかげで、語学の勉強が好きになって他の言語も学びたいとは思っていました。それで、6年前にメキシコのヌエボレオン州立自治大学の土木工学部に入学して、そこで日本の長岡技大とメキシコのヌエボレオン大学にはツイニングプログラムという特別な留学制度があると聞いて、日本に留学することを初めて意識しました。また、このプログラムの説明会などに参加してどんな制度なのかを知れば知る程日本に留学してみたいという意思が強くなりました。しかも、日本語も学ぶことができるというのもあって、絶対にこのような貴重なチャンスを見逃してはいけないと思ってツイニングプログラムに入ろうと思いました。このプログラムは一体何だろうと気になる方もいらっしゃるかと思いますが、大まかに説明しますと、学部教育の前半、まず最初の 2 年半、メキシコの出身大学で土木の専門基礎教育を受けると共に日本語の勉強を行ってから、後半の 2 年間は長岡技大で専門教育を受けて両大学の学位を取得できるという留学制度です。ですから、日本に留学をしようと思ったのは、日本語を学んで新たな文化を体験することに魅力を感じ、また母国と外国の大学の学位を同時に取れるという、なかなかない機会を生かしたかったからです。それで、日本留学を目指して毎日 2 時間程度日本語を勉強しつつ、土木の勉強をして参りました。日本語は本当に難しくてスペイン語と全然違うので、どうすれば勉強のコツをつかめるのだろうと思い悩みました。またそれに加え土木の勉強にも取り組まなくてはならず、毎日大変な日々を過ごしておりました。そんな多忙な毎日はあっという間に過ぎプログラムの最初の 2 年間が経っていました。その間、留学の条件の一つとして夏休みの間に 2 週間長岡技大で研修を受けることになって、初めて来日しました。その 2 週間で日本の美味しい料理を食べ、綺麗な場所を観光し、とても充実した旅でした。期間も短かったので、異文化を深く感じることはできなくてハネームンのような感じでした。その後はメキシコで待っていた現実に戻り、ひたすら入学試験に向けて勉強に打ち込みました。そこから、数か月後に入学試験を受けて幸いなことに合格することができました。その後、研修が終わってから８カ月後、ついに日本へ出発する時が迫り、母国を旅立ちました。子供の頃に思いも寄らなかったことが大学生での夢になり、その夢は日本留学という形で叶いました。でも、夢が叶ったと言いながらも、そこからが新たな冒険の始まりでした。今度は決してハネームンじゃないという覚悟をしてきましたが、予想以上に大変なことに立ち向かわなくてはなりませんでした。
日本に来て最初の頃に一番苦労したのは日本語でした。メキシコで 2 年半日本語を勉強したので問題なく会話をできると思い込んでいたのに、授業を聞いてはじめて日本人と会話をして、そこで改めて日本語の本当の難しさを痛感しました。その時は日本語の能力が足りず、会話と授業の内容をきちんと理解できなく、人生で一番悔しい思いをしました。しかも実は私は負けず嫌いで日本に来るために、色々な勉強を頑張って、家族をはじめにたくさんの方々から応援を頂いており、このまま戦わずに負けるわけにはいかないという思いを込めてさらに勉強に励みました。しかし、勉強をたくさんすれば、その問題が乗り越えられるというわけではなく、学校以外で会話するために日本人の友達を作って、日本の文化や習慣等に興味を持って常に努力していました。しかし、その一年目のすべてが苦労だけではなくて、いい思い出になるようなことがたくさんありました。その一つとしては日本に来てから他のメキシコ人とシェアハウスしていて、私のような目標を持っている人と関わることができたことです。ハウスメートは大学の先輩だったので、アドバイスをいただいたり、長岡での生活について教えてもらったのですが、皆で遊びに行ったり、家でゲームしたり、映画を見たりして彼らのおかげで母国から離れていたのに寂しい思いはあまりしませんでした。逆に家族といるような気持でした。そうこうしている間に、夏休みが始まり、せっかくの休みだったので、仲が良い関西の友達の実家に泊めていただいて、関西で３日間旅行しました。大阪

の道頓堀、通天閣や京都の銀閣寺などという名所に訪れて、とても楽しい関西旅行でした。その後は、JR 青春十八切符を利用して、東京を目指して１０時間の地獄のような電車移動に耐え、綺麗な景色を見たり、新しい場所も発見したり、色々な人と出会ったり、面白い経験をしました。夕方にやっと新宿に到着して現地で待っていた友達と集合して再び旅行がはじまりました。
一週間ぐらいの旅が終了して長岡に戻ったのですが、そこで夏休みが終わらず、今度金沢を目指して新たな旅を始めました。その時は石川県が開催するジャパンテントという外国人観光者を増やすことを目的にした交流イベントに参加することになって金沢に行くことができました。このイベントでは日本全国の留学生が集まり、石川県内の各地域で一週間程度ホームステーをし、日本人の家族と石川を巡りながら国際交流ができました。色々な国から来日してきた留学生と出会うことができ、他の文化も触れることができたので、一生記憶に残るような貴重な経験をすることができました。もう一つ印象に残った初体験は長岡の冬でした。メキシコでは山以外、雪がめったに降らないので、雪を見ること自体は感動的だったのに、1 日で 80 センチ以上雪が降るとは想像もしていませんでした。でも、友達と雪合戦をしたり、雪だるまを作ったりしてとても楽しい冬でした。雪が降り始めた頃、ちょうど学校の期末試験があり、本当に辛かったですが頑張る価値はありました。留学の二年目では生活面で安定することができ、日本語での会話や授業に慣れることができて一年目よりかなり楽にはなりましたが、今度はインターンシップという新たな挑戦が迫りました。大学の制度で大学院に進学する学生は学部の卒業論文を書く代わりに、日本の企業において 6 カ月のインターンシップをすることができるのですが、これは短期のインターンシップと違って、見学をしたり、お客さんとして扱われることはなく、一人の社員としてみなされます。東京での満員電車での通勤と業務で大変なインターンシップでした。しかし、日本の職場の雰囲気を味わえて、建設の実業務に関わっていい勉強にはなったと思います。しかも、この 6 カ月では、勉強したこともなかった津波についての業務の担当を任されて大きな責任を負うことになったので、はじめて仕事ならではのプレッシャーを実感しました。でも、この経験は日本語の上達や自分自身の成長には大いに役に立ったと思います。このインターンシップが終わってから長岡に戻り、大学院という次のチャレンジが待っていました。最初の二年目と違って日本語と生活面での問題はもう乗り越えて、母国にいるかのような感じになりました。また、建設への興味がさらに高まり、研究を楽しくできるようになり、日本でしばらく住んでいたいという思いも強くなりました。そして、大学院に入ってから一年後に大学から米山ロータリー奨学金への推薦をいただいて、飛び上がるほど嬉しかったです。でも、実はその前に一度推薦していただきましたが、審査に落ちてしまったので、奨学金を受けられませんでした。しかし、先ほど申しましたように、私は負けず嫌いで、今度こそ受かるぞという思いを込めて、面接を受かるように準備や勉強を一生懸命頑張りました。幸いなことに合格できたので、この出来事は人生で一番嬉しく思った出来事でした。もちろん奨学金を受けて、両親に負担をかけず、勉強にも専念できるのが嬉しかったですが、最も興味深かいことはロータリーの世話クラブという制度でした。なぜかというと、自分の企業を経営し活躍されている方と関わることは、普段の大学生活の中では非常に少ないからです。それで、このような機会を生かして、ロータリーの方々の活躍のお話しや経験を伺って将来のために、そういった精神を少しでも自分の役にたてられたことが嬉しく思います。それで今年の５月から正式にロータリーの奨学生になって、4 月に最も入りたかった企業から内定をいただき、嬉しい出来事がたくさんあった一年間だと思います。
留学での経験をまとめて今振り返ってみると、とても大変な冒険でしたが、こういった一つ一つの大変なことや悔しい思いは自分自身の成長に繋がったのではないかと思います。もし、このような経験をしなければ、今どんな人間になっていたのだろうといつも考えています。しかし、卒業して日本留学という夢が終わらず、来年から始まる仕事という本格的なチャレンジがあるので、今までより大変なことに直面しないといけないと意識しながら、今まで応援していただいた方々へいつか恩返しするために努力していきたいと思います。
この場をもちまして、支援していただいているロータリーの皆様に感謝を申し上げたいと思います。これからも色々なことに挑戦して、今よりもっと人間として技術者として成長し、社会に貢献できるように一生懸命頑張りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

＊ソウル国際大会で、初めて「米山記念奨学会」として分科会が開催された様子をＤＶＤで紹介

ハイライトよねやま 199

2016年10月12日発行
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

10月は米山月間です。
もともと1975年に、米山奨学事業への理解を深めていただくため、梅吉翁が逝去した日を含む4月22～28日を「米山週間」と決定したことが始まりです。その後、ロータリー雑誌週間と重なっていたことや、事業報告書を各クラブに送付する時期の関係から、米山週間は10月に移されました。1983年度からはロータリーの週間制度が「月間」となり、現在に至ります。

寄付金速報　— 米山月間へのご協力をお願いします —

寄付について (2015年7月1日～2016年6月30日)

クラブから定期的に送金いただく「普通寄付金」と、個人・法人・クラブから任意でいただく「特別寄付金」があります。米山奨学事業は皆さまのご寄付だけで成り立っています。継続的なご支援をお願いします。

普通寄付金

日本の全ロータリアンからの定期寄付で、各クラブで決定した金額×会員数分を半期に一度ご送金いただいています。

2015年度平均:4,760円

特別寄付金

個人・法人・クラブからの、普通寄付金以外の任意寄付。金額に決まりはなく、ロータリアン以外の方からもお受けします。

2015年度平均:13,019円

寄付をするには 所属するクラブを通じてご送金ください。

三井住友銀行　京橋支店　普通預金　0920373
口座名義:公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

詳しくはホームページをご覧ください。

ロータリアン以外の方からのご寄付

ロータリークラブを通じてご寄付いただくと、クラブの累計額に加算されます。家族にロータリアンがいる場合、その会員名義で寄付することも可能です。奨学事業に関心のある方が周囲にいましたら、ご案内下さいますようお願いしま

Q　なぜ普通寄付金が必要なのですか?

A　当事業は、毎年いただく寄付金だけで成り立っています。特別寄付金は任意寄付なので、毎年700人以上の奨学生を支援する安定財源として普通寄付金が必要です。また、1967年に財団法人の認可を申請した際、普通寄付金による一定収入が見込めると文部省(当時)を説得し、国内全クラブから普通寄付の確約をもらうことを条件に設立許可を得た経緯があるためです。

寄付に対する表彰制度

財政寄付

※2007年7月改定

個人寄付への表彰 (対象:特別寄付金)

累計額	表彰名	表彰品
3万円	準米山功労者	なし
10万円	第1回米山功労者	感謝状【青色】
20万～50万円	(以降10万円毎に) 第2回～第9回 米山功労者マルチプル	感謝状【銅色】
60万～90万円		感謝状【銀色】
100万～390万円	第10回～ 米山功労者メジャードナー	感謝状【金色】 +100万円毎に ピンバッジ
400万円～		感謝状【金色】 +100万円毎に クリスタル盾

● 累計額100万円未満は10万円ごとに感謝状、100万円以降は10万円ごとの感謝状に加え、100万円ごとにピンバッジ(400万円以上はクリスタルの盾)が贈られます。

法人寄付への表彰 (対象:特別寄付金)

累計額	表彰名	表彰品
5万円	準米山功労法人	なし
50万円	米山功労法人	感謝状
100万円～	(以降100万円毎に) 米山特別功労法人	感謝状と盾

クラブへの表彰

累計額	表彰名	表彰品
100万円毎	米山功労クラブ	感謝状
1000万円毎	達成クラブ	感謝状(ケース付)
—	クラブ創立記念特別寄付	盾(10万円以上の場合)

● 「米山功労クラブ」はクラブ扱い・個人・法人すべての特別寄付金が対象
● 「達成クラブ」は普通寄付金・特別寄付金の合計金額が対象

表彰品が不要な場合は、クラブ事務局へお申し出ください